

令和4年12月1日

美里町議会
議長 鈴木宏通 殿

教育、民生常任委員会
委員長 柳田政喜

教育、民生常任委員会委員派遣報告書

本常任委員会は、所管事務調査を終了したので、美里町議会委員会規則第2条の規定により下記のとおり報告する。

記

1. 調査年月日 令和4年11月9日（水）～11月11日（金）
2. 調査視察地 静岡県伊豆市
静岡県小山町
3. 参加委員 柳田政喜、伊藤牧世、平吹俊雄、
吉田二郎、鈴木恵悦、村松秀雄
4. 随員職員 齊藤美穂
5. 調査事項 健康で長生きするために

所管事務調査研修報告

1. 「目的」

2025年以降、団塊の世代が75歳以上の後期高齢者となり、2040年ごろには、団塊ジュニア世代が高齢者となり、高齢者人口がピークを迎える。労働人口が減少し、労働力不足が深刻になるだけでなく、年金や医療費など社会保障費も増大することが予想されている。人生100年時代を迎えようとする今、特に介護予防、健康づくりの施策が必要とされる。

近年全国的に、高齢化と核家族化が進んでおり、本町も同様に高齢世帯、高齢単身世帯が増加している傾向にある。また、新型コロナウイルス感染症の流行による社会変化で地域のコミュニティ活動が減少し、高齢者の孤立が心配される状況となっている。

そこで、町民誰もがより長く健康に生活していけるよう、調査研究をすることとし、本町担当課、美里町社会福祉協議会との意見交換会を行い、町の状況と現在行われている介護予防や健康づくりの取り組みに、努力されていることを確認した。しかし、先の常任委員会で提言していた「健康フェア」「健康ポイント」等の取り組みがいまだ検討・実施されていない。

誰もが積極的に保健事業、介護予防事業に長く取り組める工夫が必要なことから、先進地である静岡県伊豆市、小山町の取組施策を研修することとした。

2. 「研修事項」

- 1) 健康マイレージによる健康に暮らせるまちづくりの取り組みについて
- 2) 高齢者の保健事業と介護予防の一体的な取り組みについて
- 3) 住民主体の健康づくり活動と行政の関わり方について
- 4) その他、ご紹介いただける健康寿命延伸のための活動、取り組みについて

3. 「研修内容」

○静岡県伊豆市

概況

人口 29,077人 高齢人口 12,198人(42%)

世帯数 13,343世帯

担当部署 健康福祉部 健康長寿課

- 1) 伊豆市げんきプロジェクトについて
 - ・健康なまちづくりを目的に「減塩」「運動」「禁煙」の3本柱を推進する「伊豆市げんきプロジェクト」を行っている。
- 2) いずれ健康マイレージについて
 - ・健康に無関心な層への働きかけや健康受診率の向上を目的に市の健康づく

りメニューを行った住民が特典を受けられる制度を行っている。

- 3) まちの保健室について
 - ・定期的に相談ができる場所を設け、市民の心身の健康維持・増進を図っている。
- 4) 高齢者の保健事業と介護予防の一体化について
 - ・令和5年度からの本格的実施に向けて役割分担の見直しを行っている。今後、既存の事業を生かした取り組みをしていく。
- 5) 住民主体の健康づくり活動と市の関わり方について
 - ・住民主体の通いの場づくりとして「ロコトレ教室」などを行い、補助金支援や関連団体との調整を行っている。

伊豆市所見

- ・医療、福祉に関する健康福祉部として、子育て支援課、健康長寿課、社会福祉課があり、保健師15人、看護師2人、管理栄養士3人が配置され、部内での横の連携が取れている。
- ・本町と同じく心疾患系の死亡率が高く、「げんきプロジェクト」に取り組み、その一環として「いずし健康マイレージ」にも取り組んでいるが、参加者の固定化や新型コロナウイルス感染症の影響により、成果が伸び悩んでいる。
- ・夜間に「まちの保健室」を開催することにより、30代～50代や、男性の利用が増えてきている。
- ・「居場所」への補助金、設置経費10万円、活動経費1,200円/回（上限6万円）家賃補助上限1万円/月を行っている。

○静岡県小山町

概況

人口 17,670人 高齢人口 5,491人 (31.1%)

世帯数 7,499世帯

担当部署 住民福祉部 福祉長寿課
健康増進課

- 1) おやま健康マイレージ事業について
 - ・自主的に健康づくりやボランティア活動、各種イベントなどへ参加しポイントカードにポイントを貯めることで、賞品や各種特典が得られる制度で、これにより町民の日常的な健康習慣、意識、増進を促すことを目的として行われている。
- 2) 高齢者の保健事業と介護予防の一体的な取り組みについて
 - ・関係課、関係団体との体制を構築し、健康づくり、フレイル対策、疾病予防・重症化予防及び介護予防等の取り組みを制度や年齢等、切れ目なく展

開し、町民の健康寿命の延伸を図っている。

3) 住民主体の健康づくり活動と行政の関わり方について

- ・通いの場等での健康教育、健康相談、フレイルチェック等のサポートを行っている。

小山町所見

- ・おやま健康マイレージ特典獲得のため、担当職員が直接、協賛事業所獲得のため声がけをしている。また、新型コロナウイルス感染症の影響も少なく、着実に実績を上げている。
- ・日本老年学的評価研究の JAGES 調査フィールドに参加し、様々なデータを分析している。

4. 「まとめ」

両市町共に、様々なデータを活用し、職員が積極的に活動していることに感銘を受けた。

健康マイレージについては、それぞれ特徴があるものの、低予算で一定の成果を上げている。特に参加している住民の意識の向上も見られ、本町としても積極的に取り組むべきと感じた。

また、「通いの場」を増やしていくためには、各地域に対する積極的な指導と共に援助も必要である。

介護予防、健康づくりの為、あらゆる世代が参加しやすい環境として休日・夜間のイベント開催も必要である。